

# 改憲に抗し民主主義の幹太く

## マスメディア時評

安倍晋三首相が年頭の「所感」で、憲法の「改正に向けて、国民的な議論をさらに深めていく」とあらためて改憲を主張するなかで、新年を迎えました。昨年末、秘密保護法の制定や集団的自衛権の行使、安倍首相の靖国神社参拝などをめぐって議論を繰り広げたマスメディアも、さらに憲法問題などに土俵を広げて、活発な議論が予想される年明けです。

### 憲法問題では連続の社説も

秘密保護法の制定や首相の靖国参拝に反対した「朝日」「毎日」「東京」(「中日」)などの各紙は、新年の社説でも、「政治と市民にぎやかな民主主義に」(「朝日」1日付)、「『1強政治』と憲法―『法の支配』を揺るがすな」(同3日付)、「民主主義という木 枝葉を豊かに茂らそう」(「毎日」1日付)、「人間中心の国づくりへ」(「東京」同)など、憲法問題や民主主義を中心に論を展開しています。

地方紙でもたとえば北海道新聞(「道新」)は1日付から連続して「憲法から考える」との社説を続けています。「道しるべは憲法」「憲法を前面に、この国のあり方をあらためて問い直していきたい」(1日付)とのことばには重いものがあります。これに対し、秘密保護法に賛成、推進した「読売」「産経」などは新年も、「日本浮上へ総力を結集せよ」(「読売」1日付)、「国守り抜く決意と能力を」(「産経」同、論説委員長の論評)と、日米同盟の強化や「集団的自衛権の行使を可能にする憲法解釈の変更」などの主張を展開しています。安倍政権をおおった反省はありません。

昨年の東京都議選と参院選を通じて浮かび上がった「自共対決」の政治構図と従来の保守層からも批判が上がる安倍政権の暴走は、日本の政界で各党の立ち位置を鮮明にしているだけでなく、マスメディアの世界でも、その立ち位置をいやがうえにも浮かび上がらせています。安倍首相が改憲を鮮明にしている新年、「読売」などのメディアはなおも暴走をおおり続けるのか。メディアの存在意義が問われているといえるでしょう。

### 歴史の汚点を繰り返すのか

安倍政権の異常な暴走は、これまで保守といわれた人たちからも、「安倍政権は今や保守ではなく右翼の政権だ」と批判の声があがっています。もしメディアまでがそれに加担すれば、それこそ国民からのきびしい批判は免れません。「読売」や「産経」はこれまでも改憲を主張してきましたが、安倍政権が進める立憲主義の破壊や、「解釈」の変更による改憲という「法の支配」の破壊まで認め、暴走をおおるのでは、「権力の監視役」としての役割はまったくはたしていないことになりす。

昨年大問題になった、国民の「知る権利」を奪う秘密保護法の制定に、「読売」など一部の全国紙が反対しなかったため、全国の新聞、放送などが参加する日本新聞協会もはつきりとした「反対」声明を出すことができませんでした。安倍政権が公然と持ち出そうとしている改憲の策動にも新聞業界がそろって反対できないとなれば、日本のマスメディアの歴史に新たな汚点を広げることになります。

1日付で民主主義を論じた「朝日」と「毎日」は、「市民」の異議申し立てで民主主義をにぎやかなものにし、選挙や議会だけでなく「枝葉」を茂らせようと主張しますが、選挙を通じ「国民が主人公」の政治を実現する民主主義の根幹を太くすることはますます欠かせません。

一般のメディアもその立ち位置がいよいよ問われるなか、安倍政権の改憲の策動に抗し、秘密保護法廃止、「原発ゼロ」、「戦争する国」は許さないなどの立場を貫き、国民とともに政治の根本的な転換をめざす、「しんぶん赤旗」と民主的ジャーナリズムの役割は重要です。

2014年1月5日(日)

靖国参拝  
米国、改めて「失望」  
韓国国会が「侵略美化」

安倍晋三首相による靖国神社参拝に関して、米国務省のハーフ副報道官は30日の記者会見で、「今回の場合、日本の指導者が隣国との緊張を悪化させる行動をとったことに、われわれは失望している」と繰り返すと述べ、在日米大使館や国務省の声明で述べられた立場を改めて表明しました。

「遺憾」や「懸念」ではなく、「失望」という強い言葉を使った理由を問われた副報道官は、「(首相の参拝が)緊張を悪化させると考えていることを、非常に明瞭にするためだと語りました。

ドイツ政府のザイベルト報道官は同日の記者会見で「日本の内政にはコメントしない」としつつも、「各国は20世紀の恐ろしい戦争で果たした役割に恥じて誠に行動しなければならぬ。それによりかつての敵と未来を築ける」と発言しました。

韓国国会は31日、安倍首相の靖国参拝を「侵略戦争に対する真の反省もなしに、むしろ侵略行為を美化している」と糾弾する決議を採択しました。決議は「日本政府は人類の普遍的価値を否定する時代錯誤的な行為を即刻中断し、歴史に対する責任ある姿勢を取らねばならない」と述べています。

2014年1月1日(水)

2014, 1, 7 NO, 639

## 日本共産党

### 磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp  
川西町結崎 8 6 2 - 7 0745-43-2415  
吉田 容工 Eメール katunori\_yosida@ybb.ne.jp  
田原本町大木 1 1 3 - 5 090-5257-4446  
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp  
田原本町鍵 2 8 1 - 1 0744-33-8570  
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp  
三宅町屏風 4 4 0 - 5 0745-43-2661

日本共産党発行  
しんぶん赤旗  
日刊●月3,400円  
日曜版●月800円



## む 街路灯LED化進

先の十二月議会で、防犯灯設置補助金を三百五十万円増額する補正予算が提出され、承認されました。

その理由は、各自治会から街路灯をLED化したいという要望がたくさん寄せられているからです。LED化すると、電気代が安くなる、電球の寿命が延びる等自治会にとっては管理がしやすくなるそうです。街路灯の電気代を自治体が負担している生駒市や大和郡山市では、国の補助金を活用して、すでに市内すべての街路灯をLEDに交換したそうです。

残念ながら本町では、国の補助金申請をしなかつ

たこともあり、様子見をされています。この間、各自治会からの要請が増えてきたことから、今後七年間かけて、すべての街路灯をLEDにする計画を立てておられるそうです。

現在、全町の街路灯が三五四四基あり、そのうちLEDは四七七基だそうです。町では、器具の交換に三万円、柱の設置を伴うものに六万円の補助金を出しています。LEDの器具代が二万円前後に安くなっており、明るさも蛍光灯とそんな色がないことから、各自治会が積極的に更新計画を立てるのは、今です。

田原本議  
会議員  
吉田容工



## 違和感の無い社会に!

お正月休みはゆっくりと過ごされましたか。今年には九連休が多かったようです。暦にもよりますが、年に二・三回はこれくらいの休みが欲しいですね。お正月休みは春のゴールデンウィーク、そして、秋のシルバーウィークがそれぞれ有効に活用出来て、誰もが一周間から十日程度は休める、そんな社会で有りた

い。何せ、皆さんは、世界有数の経済大国に住んでいる国民なんです。その経済力に見合う日々の暮らしを享受出来ていてこそ、前述の休暇も有効に働くとゆうものです。また、老後の暮らしも、社会保障の負担を個人の責任で賄うような現

在の方式から、社会全体が支える方式にしてこそ、不安が無くなり安心して過ごして行けると言うものです。

それには、政治の役割が決定的です。何せ、その要となる皆さんが納めた税金の使い道を決めているのが、皆で選んだ国民の代表で構成している立法府の取り組みなんです。

この取り組み、皆さんの思いと違和感が有るなら、それは、使い道の決め方が間違っている証拠です。道は険しいかも知りませんが、違和感無く、皆が安心して経済大国の恩恵を受けられる仕組み作りにも今年も頑張ります。

川西町議会  
議員  
芝 和也



## 町づくり

三宅町の町づくりについて、1日の奈良新聞、町の1月広報で古墳群の発掘・試掘、町の玄関口である近鉄石見駅周辺整備、京奈和道の三宅インター設置、大和中央道の延伸、企業誘致とともに、既存の住宅地に配慮した進出企業に対するルールづくりを並行して進めるという事が上げられています。

古墳群では瓢箪山古墳、伴堂東遺跡の発掘が上げられ、纏向遺跡との関係が注目されるとしています。石見駅の周辺整備では、肝心の駅係員の無人化が12月21日から実施されていますが、どうするかについては一言もふ

れられていません。無人化になれば駅前がいつそ寂れていくことが目に見えています。近鉄との話し合いの状況を住民に知らせる必要があります。

「撤回」を求めるだけでは解決しないのではないのでしょうか。どのようにすれば駅係員の配置が継続してできるのか探求してこそ、近鉄との協議もすることが出来ます。住民の足と安全の確保をしたうえで駅前整備、関連する道路の整備を計画的に進める必要が大事であります。計画を住民に示し、住民合意で町づくりを進めることを提案します。

三宅町  
池田年夫



## 「笑う門には福きたる」

ポストを覗き、束になった年賀状を見た時、「やっ」と新年が明けた!と実感する瞬間です。年賀状を頂くのは嬉しいものですが、中々会えない人が近況や気づかいの一言を添えてくれるのは尚更嬉しいものです。

私の大阪の友人は、よく絵手紙をくれますが今年の年賀状は大きくおたふくの顔が描いてありました。細い目尻の赤とピンクの頬、白い下膨れの笑い顔を見てたら本当に幸せな気分になります。しんぶん「赤旗」に載っている記事で、幼い子どもが発する言葉に思わず

プツと吹きだした時は肩の力がスーと抜けていくような感覚です。

また、最近の週刊朝日に特集で載っていた長谷川町子さんの「いじわるばあさん」の四コマ漫画は本当に笑いこけてしまいます。

今の世の中、消費税、原発、基地、特定秘密保護法、など暗い事件や不安な動きが渦巻く現在、だからこそ「笑う門には福きたる」のことわざどうり、笑って幸福を呼び込みたいものです。

田原本議会  
議員  
森 良子

